

キイトラッキョウ	<i>Allium kiiense</i> (Murata) Hir.Takah. et M.Hotta	絶滅危惧Ⅱ類
(環境省:絶滅危惧Ⅱ類)		ユリ科
選定理由	分布が限られているうえ、近年個体数が減少した集団が増えている。	写真(高橋弘)
形態の特徴	鱗茎は卵形。葉は線形、断面は円形、中空、長さ10 - 30cm、幅3-5mm。花茎は高さ10-25(-35)cm。花は散形花序に5-15個つき、斜め下方に開く。花被片は広卵形から楕円形、長さ約5mm、赤紫色。花糸の基部は環状の帯をつくり、花被片に癒着する。柱頭は1個。	
生態的特徴	川沿いの湿った岩場に生育する。花期は10-11月。	
分布状況	東海地方南部と紀伊半島南部に分布する。岐阜県では県南の東部と中部の南寄りに見られる。	
減少要因	園芸目的と思われる採取と生育地の破壊。	
保全対策	採取の禁止と生育地の保全。	
特記事項		
参考文献		

文責:高橋弘